

国土交通省 近畿地方整備局様
淀川水系流域委員会様

平成 17 年 1 月 3 日

山岡久和

天ヶ瀬ダム再開発に伴う資料等について質問

質問 1. 天ヶ瀬ダムの能力 UP の妥当性について、

- ①. 現状のコンジットゲート 3 門で 1,100m³/s の能力であるが、計画最大放流量が 840m³/s であります。洪水制限水位を変えれば計画最大放流量を大きく出来るのではありませんか？

更に、クレストゲート四門で 680m³/s の能力があります。発電水利権が 186.14m³/s あります。

宇治川の洪水時として考えれば、天ヶ瀬ダムの最大放流量は 1,200m³/s であるから、(大戸川流量 550m³/s と瀬田川洗堰全閉で天ヶ瀬ダム流入量 2,300m³/s を 1,100m³/s に調節)、天ヶ瀬ダムからの最大放流量 1,500m³/s (洗堰から 1,200m³/s と大戸川より 300m³/s) は琵琶湖の後期放流量です。果たして天ヶ瀬ダム再開発事業で 1,500m³/s 放流能力の本当の必要増加分はいくらですか？

天ヶ瀬ダム再開発事業の主たる目的である琵琶湖の後期放流時は、宇治川の洪水危険が去った後であるから放流に関しては、宇治川堤防及び塔の島地区の諸問題を除けば、現在の天ヶ瀬ダムでも、現在の洪水時制限水位を超えることにより、天ヶ瀬ダムより 1,500m³/s を流す計画として洗堰の操作と合わせれば、流量だけで言うならば大きな問題は無いのではありませんか？

要するに、宇治橋付近で 1,500m³/s の流量しか流さないのですから。{「天ヶ瀬ダムの建設(再開発)に関する基本計画(平成 7 年 4 月 17 日)参照」}

- ②. 利水について、京都府の水道用水として、現在は 0.3m³/s ありますが、天ヶ瀬ダム地点において、新たに最大 51,840m³/day (0.6m³/s) の取水を可能にする計画であると言われているが、すでに暫定水利として使用しているらしいと噂がありますが事実ですか？もし事実であるならば、既設ダムでも問題は無いということですか？

質問 2. 第 4 5 回委員会 (審査資料 1-6-2) 塔の島地区の河道整備について、再度、宇治川下流の治水対策についてお聞きします。

- ①. 6 番の「引き提案」が亀石上流より右岸を約 50 メートルにわたり宇治橋下流を越えて関電の放水路上流まで削る計画になってありますが、地域の歴史にも基づく「環境と文化」を破壊する計画であり、

また、憲法に保障された土地の所有権を侵す戦前・戦中の国家でなければ、絶対に出来ない計画です。その上、現在の宇治橋は架け替えられて毎秒 1,500m³/s に対応しています。この案はいつの時点のものですか説明してください。

また、委員会はこの計画案の内容の説明を受けられ、審議されましたか？

- ②. 7番の「嵩上げ案」について、このエリアの設定をどんな基準で定められたのですか？
 また、右岸側はすでに今までの工事で改修されていますが、更に嵩上げが必要であるというのですか？
 また、「まちづくりと一体となった整備が必要とありますが」と言われていますが、どんな制度を導入しようと計画されたのか教えてください？
 この案を作成されるにあたり住民の意向をどのようにして調査されたのですか？
 もしも、関係する地域住民がこの計画案に同意されたら実施されますね、そのときの事業費は概算でいくらになりますか？およその工期は何年を考えていますか？委員会はこの計画の内容についての説明を受けられましたか？
- ③. 8番の「パラペット案」についてすでに右岸は概ねそのように施工されています。左岸側を約 1.7m の高さもある壁を設けることは、治水のみを考えた案であり、誰が理解されるかと考えて検討案としてだされたのでしょうか。この地域は宇治市の観光の中心です。琵琶湖国定公園、特別風致地区、宇治市景観条例でシンボルゾーンに指定されている地域であります。一度でも地元の誰かの意見を聴かれましたか？委員会はこの計画案の内容の説明を受けられましたか？
- ④. 9番の「バイパス案」について、トンネル部と開水路部がありますが、このルートが最善であるとして検討されたのか疑問です。他にも検討されたものがあれば、開示していただきたい。
 また、開水路部は、古い神社やお寺等があり、その上、新しい道路、新しい京阪電鉄宇治駅、JR の高架、並びに既存道路の取り付け等があり、絶対に施工が出来ないことを知って描かれています何かあるのですか？質問3の1. 2. 3. 4は、当初の河床掘削 3.0m 案から現段階の 0.8m 案までありますが、どの時点において検討されたものか疑問です。
 いずれの案もはじめから検討したポーズをしただけで中身がなく、掘削・嵩上げ以外出来ないことの言い訳に過ぎません。
 委員会はこの計画案の内容の説明をぜひ受けていただきたい。
 現在の計画は、塔の島地区の川幅を広げないで流量を増加させようとする経済性優先の案であります。
 この考え方では、①掘る。②嵩を上げる。③流速を速める。④バイパスを造る等、この組み合わせ以外にありません。
 新河川法では「環境・治水・利水」が等しく目的化され、流域委員会も「自然景観や歴史的景観の保全に最大限の配慮をする必要がある。」とされています。
 バイパス案も組み合わせの中に含めて、今一度、十分な審議をしていただきたい。
 このような代替案をもつて「最大限の配慮」と十分な審議がされているとはとても言えないのではありませんか。

質問3. 宇治川堤防 27km の調査・検討された情報の開示をしてください。

現在の土堤堤防が、長期間におよぶ琵琶湖の後期放流に対応出来るものかとも不安であります。

以上